

2016年(平成28年)4月8日(金曜日)

地方議会 定例会から

小・中 学生に 主権者教育実施せよ

名古屋市議会で三輪議員

三輪芳裕議員は、18歳選挙権の実現を受け小・中学生への主権者教育の導入を訴えた。

三輪議員は「若者の政治参加への意識を高めるため、教育現場における、社会や地域の課題を自分の問題と捉えて主体的に関わる教育が重要だ」と強調。その上で、小・中学生の時から、主権者意識を芽生えさせることで、「考える有権



三輪議員

者」「賢い国民」が増えていくとして、小・中学校の「総合的な学習の時間」を活用して、主権者教育を実施していくべきだと提案した。

また、こうした主権者教育を行う場に保護者も参加

できる機会を設けるよう主張した。

これに対し、市側は「小・中学校の総合的な学習の時間で、現在、市が行っている『選挙出前トーク(選挙の重要性を認識してもらう講義など)』を活用し、模擬選挙など参加型、体験型の学習の充実が図られるよう各学校に促していく」と答えた。また、主権者教育の場に保護者も参加できるように、授業参観で出前トークを行って、子どもと一緒に学べる機会をつくりたいと示した。